

自衛隊のおかげで助かったこと

五十嵐 由希

「みんな、大丈夫か」

お父さんがさげんだ。十月二十三日午後五時五十六分。新潟県中越地震が私達をおそった。ケガ人もいたし、道路や家などがこわれて、このまま山古志にいられるのか不安になった。それに、ゆれが続いて今でも忘れられないほど恐かった。

山古志小学校

家から出て、少したって近くの小学校へ避難した。山古志は、水や食料、電気がなくすごく困った。お風呂にも入れない。悲しむ人がたくさんいて、私も悲しくなった。早く助けてほしい。

地震から、三日目の朝、村民全員が山古志のとなりの長岡市への避難を聞かされた。このままではもうもたないから、みんなは喜んだ。

「次の六人、乗って下さい」

全員で自衛隊のヘリで山古志をはなれた。それは、みんなにとって、すごくつらいことだったけど、しかたがなかった。でも、自衛隊のおかげでみんなは少し、安心した感じだった。私も、うれしかった。

長岡の避難所に着いたら、水や食料、電気があった。お風呂も造ってもらった。特に、自衛隊が中心となってくれた。お風呂の管理も、食事も。それなので、私のつらさは日に日になくなっていった。

山古志小学校

その生活も終わりになる、二カ月がたった頃。自衛隊の仕事も終わりの日が来た。私は自衛隊の人にすごくお世話になったと思った。よく考えてみれば、自衛隊が来なければ、みんな助かっていなかったと思う。本当に感謝している。だからこれからも、助けてくれた人への気持ちをお忘れしないで、山古志復興に向かって、私もできることからやっけていきたい。